



報告書

令和2年 9月 7日

小牧市議会議長 様

会派名 明正クラブ

代表者氏名 河内 伸

研究・研修を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 参加議員 船引 嘉明

2 日 程 令和2年8月4日（火）～8月5日（水）

3 研究・研修名

地方創生SDGs特別講座

講師：山中俊之（株式会社グローバルダイナミックス代表取締役、
「2030SDGs」認定ファシリテーター、国際養成コーチ）

8月4日

10時～

<Part 1> SDGsの基礎解説

14時～

<Part 2> SDGsカードゲーム体験

8月5日

10時～

<Part 3> SDGsアクションで新型コロナウイルスを
乗り越える

14時～

<Part 4> 持続可能な自治体経営のポイント

4 主 催 者 地方議員研究会

5 会 場 大阪市東淀川区東中島 1-18-22 新大阪丸ビル別館

※今回は資料と音声データを郵送してもらい、会場には
行かずに受講。

6 受講目的

世界の人口・環境・貧困問題は深刻で、地球資源をものすごい勢いで枯渇させている。講師である山中氏は、人類が地球を滅ぼす威力を持った深刻な状況にある事を実体験し、対策事業と普及活動に携わっておられるため、受講することにした。

小牧市でも、「まちづくり推進計画」が2020年3月に策定され、持続可能な開発目標として地方創生に乗り出したところであり、我がまちにおいてもSDGsを取り入れるべく、学ぶことを目的としてこの研修に参加した。

7 主な内容

<Part 1> SDGsの基礎解説

- ・実施原則は、地球上のすべての人への配慮が求められ、毎年国連総会時期にレビューされる。5つの特徴として「①普遍性 ②包摂性 ③参加型 ④統合性 ⑤透明性と説明責任」があり、8つの優先課題として、「①あらゆる人々が活躍する社会の実現 ②健康長寿の達成 ③成長市場の創出・地域活性化・科学技術イノベーション ④強靱な国土と質の高いインフラ ⑤省・再生可能エネルギー、防災気候変動対策、循環型社会 ⑥生物多様性、森林、海洋等の環境保全 ⑦平和と安全・安心社会の実現 ⑧SDGs実施推進の体制と手段」が定められている。

その解説として、「①自治体におけるSDGs ②自治体の施策との関係 ③地方創生との関係」の説明があった。

- ・未来都市モデル事業の取り組みとして、自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースによる省庁横断的な支援から、成功事例の普及展開で国内外に情報発信させ、持続可能なまちづくりを浸透させる。
- ・17のゴールについて

<社会問題系 6 項>

- ①貧困をなくそう ②飢餓をゼロに ③すべての人に健康と福祉を
- ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥安全な水とトイレを世界中に

<経済系 6 項>

- ⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩人と国の不平等をなくそう ⑪住み続けられるまちづくりを

⑫つくる責任 つかう責任

<環境・基板系5項>

⑬気候変動に具体的な対策を ⑭海の豊かさを守ろう

⑮陸の豊かさを守ろう ⑯平和と公正をすべての人に

⑰パートナーシップで目標を達成しよう

- ・この17のゴールの下にそれぞれ169のターゲット、232の指標が設けられている。

<Part2>SDGsカードゲーム体験

各グループで達成目標（大いなる富・悠々自適・貧困撲滅の賢者・環境保護の闘士・人類賛歌の伝道師）からゴールを選んで、他の条件として、資金・有効期限2030年・プロジェクトカードが与えられ、経済・普及・消費などのカード「世界状況メーター（必要性和優先性）」が一定の水準以上で、プロジェクト遂行可。達成したプロジェクトは対価をもらう。他のプロジェクトの進捗でメーターが動き、状況は刻々と変化する。チームの中で相談、チーム間の交渉、2025年時点で中間発表し、世界の状況メーターの経済・環境・社会それぞれの達成状況によって取り組むプロジェクトの見直しをかけ、2030年で最終発表。全体の動き、過不足、必要な政策と自分ができる事を検証して終了。

このゲームを通じて、あるべき政策と自分ができる事、いわゆる需要と供給の間の手段を考え工夫する訓練となる。

<Part3>SDGsアクションで新型コロナウイルスを乗り越える

・新型コロナウイルスとSDGsの関係

a. 目標3「すべての人に健康と福祉を」の中のターゲットに3.3「感染症に対処する」がある。困窮者支援は、SDGsの多くの目標と関連。

一斉休校は公平な教育を損なう

⇒これまでの産業革命以降の人類の生き方の改変(温暖化ガスの排出、大量生産・消費)

b. 新型コロナウイルス対策は、SDGs対応。平時にSDGs対応ができていれば次の感染症対策になる。

⇒全世界レベルでの実施が必要。(一部でも細菌が残れば、再発の起点化となるため、全面的な根絶対策が必要)

・ポストコロナに起こる5大変化

①国際関係は連帯重視 ②政治は政府強大化 ③経済フリーランスなどの独立請負人によるギグエコノミー（インターネットを通じた単発の仕事でお金を稼ぐ働き方やそういった仕事でお金が回っている経済の事）の台頭 ④都市は大都市密集から田園都市分散へ ⑤志向は簡素・静謐・利他など精神的価値や芸術重視

⇒・優勝劣敗が進む企業や業界

・フリーランスや非正規の立場が見直され、相対的に正社員の立場は弱まる

☆勝ち組の生き残りキーワード

G A F A、生活必需品、物流、再生可能エネルギー、医薬品、自動化、負け組は組織の参画、協働の逆行へ成す術無し

・各自治体の取り組み事例

a. クオモNY州知事は会見にて「(新規感染者が減り始めた状態はフェーズ1が終わっただけであり、) フェーズ2においては『Do Not Harm:気を緩めないで Be Smarter:検査を広める Learn the Lessons:ただの再建ではなくより良い社会へ』新しい、より良い社会に扉を開く。より良い社会への再開はより良い医療システム、より良い公共交通機関、より良い遠隔医療、より良いオンライン授業、社会格差の減少。」と発言した。

b. 北九州市のSDGs戦略ビジョンは「環境・社会・経済のバランスで『真の豊かさ』にあふれ、世界に貢献し、信頼される『グリーン成長都市』」である。

⇒人口減少と経済縮小克服のまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立は安心して暮らせる持続可能な地域の活性化、未来都市参考＝‘18は29自治体、‘19は31自治体、‘20は33自治体制定。

c. テーマごとの取り組み事例

女性活躍、環境問題、地産地消再生可能エネルギー

<Part 4>持続可能な運営のポイント

・行政経営におけるSDGsの位置づけ

- ①首長と議会の問題意識を高める
- ②SDGs未来計画だけでなく、総合計画にも入れる
- ③組織目標や個人目標にも入れて、人事評価と連動させる
- ④SDGsに詳しく施策立案できる人材育成

- ・自治体の組織人事の課題

- ①トップマネジメント（首長と議会）の重要性 ②縦割り組織の限界
- ③国内事情に閉じた思考限界 ④市民を巻き込む必然性

⇒行政経営の本格変革期

そのためには、①複数の専門分野の幅広い視野とリーダーシップを持つ人材育成 ②トップマネジメント力と部局長のリーダーシップ

③SDGsに関連する事例収集と対応策を組織横断的にできる組織と人材の醸成 ④市民や企業を巻き込む体制 が必要である。

- ・自治体経営に直結する目標（目標16「平和と公正」）

- ・人事制度のあるべき姿

- ①専門性とリーダーシップを育てる異動や昇進の仕組み
 - ②適切な昇任選抜の仕組み ③危機感を持つ程度の格差のある給与制度
- ⇒有機的な作用を生む体制（キャリアアップ）

昇格選抜の明確な基準と客観性には外部アセスメントによる評価が必要となる。

- ・給与表の重なりが大きく、何年も昇給し、昇格しても給料があまり変わらないことが問題。重なりを減らし、課長以上の管理職は定額制の導入をすべきである。

- ・人事院勧告は6年連続引き上げ、今年度はコロナ禍でどのような勧告になるのか注目される。

- ・SDGsコンパスと実践的事業計画

- ①SDGsの理解→②優先課題の決定→③目標設定→④経営へ統合→⑤報告とコミュニケーションを行う→②に戻る

- ・自治体の取り組みステップ

- ①全庁的にSDGsを理解する ②SDGs取組体制づくり
- ③目標と指標を設定（統合計画に連動） ④アクションプランを設定（実地計画と事務事業評価と連動） ⑤実行とフォローアップ（実施計画や事務事業評価の振り返りと連動）

事例：豊田市（SDGs未来都市に選定、「SDGs未来都市計画」など）、

真庭市（SDGsパートナーなど）

市民へのPR方法

- ・役所の見えやすい場所にSDGsロゴを入れる。
- ・自治体内企業に認証マークを促す。

8 考察（小牧市への反映）

- ・ いずれの立場においても真剣に本格的な当事者意識を持ち、巻き込むことの大切だということを学んだ。
- ・ 発想が今の計画にSDGsを乗せていくやり方では形骸化、起点をSDGsに、これを心底理解できている人に主導権を与えないと目標を外す。
- ・ 元々優れた知能を持つ行政マンを如何に育て市民サービスに活躍してもらうかを考えるとき、事務職であれば入庁15年くらいまでは3年ごと位に部署を変わり適性を知り、専門分野を見定め、次の10年は2部署を行ったり来たりして専門化とスキルアップを図るべきである。専門性こそ市民の信用になる。昇格昇給の責任権限と負担・やる気に改革が必要。
- ・ 自分の学びは、SDGsのいう誰一人取り残さない持続可能な社会づくりが、大切ということである。
- ・ 経営をめぐる環境は一層厳しさを増す中、緊迫する社会情勢、情報技術の劇的な進化に加え、コロナ禍で政治・経済・社会・科学とあらゆる分野で環境が激変している。これまで以上の感度と意欲をもって学び実践していくことであたらしい未来を切り開いていくことに応じていけると改めて感じた。
- ・ コロナ禍を含め、この大変化を勝ち抜くためには、世の中の価値観の変化に早く対応して、自分は何ができるかの視点で、手順や優先すべき判断基準のもと、誠実に説明責任を果たし、情熱をもって、周りの人に必要なことを適切に提供することが必要と考える。